

平成30年5月28日

高松市長 大西 秀人 様

高松市牟礼地区地域審議会
会長 三野重忠



平成31（2019）年度及び2020年度の実施事業に関する
意見に関する意見の取りまとめについて（回答）

本地域審議会は、平成30年4月16日付け高地振第1011号で依頼がありました、合併基本計画に係る平成31（2019）年度及び2020年度の実施事業に関する意見について、慎重に審議を進め、取りまとめましたので、別紙のとおり回答します。

合併基本計画に係る平成31（2019）年度
及び2020年度の実施事業に関する意見

平成30年5月

高松市牟礼地区地域審議会

合併基本計画に係る平成31（2019）年度及び2020年度の実施事業に関する
意見について

地区名：牟礼地区

| 番号 | 項目 | 意見の内容 |
|----|-------------------|---|
| 1 | 【石の民俗資料館における弱者対策】 | <p>「高松市石の民俗資料館」は、その希少性・特異性もあり、多くの利用者から好評を得ていますが、立地条件から駐車場の確保に難があり、高齢者や障害者等の弱者にとっては厳しい利用環境下に置かれています。</p> <p>現在、資料館横に障害者・妊婦用の駐車スペースが2台分用意されているだけで、弱者から不満の声が出ているため、高齢化社会に対応するよう駐車スペースの増設をお願いしたい。</p> <p>もし、地形的制約からハード面の対策が困難であるのなら、せめて弱者に対する分かりやすく親切な案内・誘導を行うなど、きめ細かなソフト面の対策を講じていただきたい。</p> <p>高松市では、「高松市創造都市推進ビジョン」を策定し、“魅力にあふれ、人が輝く創造都市”を目指していますが、ユニバーサルデザインの観点に立ち、“人にやさしい”都市ブランドイメージを定着させる必要があると考えます。</p> |
| 2 | 【石匠の里公園の芝生の管理】 | 石の民俗資料館敷地内にある石匠の里公園は、子どもたちの遊び場であるほか、住民の散歩や犬の運動場などとして、たいへん活発に活用されている場所だと考えていますが、芝生がところどころで傷んでいたり、土が露出しているところがあるため、今後、どのような維持管理を計画されているかお示しください。 |
| 3 | 【交通安全対策の充実】 | 高齢者に身体能力低下の自覚と危険予測の考え方を身に付けてもらうために、「高齢者安全運転教室」の開催を増やすなどして交通安全教育の普及を図り、高齢者が関係する交通事故の減少を図られたい。 |
| 4 | 【地域包括ケアシステムの構築】 | <p>一人暮らしの高齢者が安心して暮らせる地域にするために、在宅医療と介護を一体的に提供できる体制の構築を図られたい。</p> <p>次に、認知症の人を介護する者の負担やストレスを少しでも軽くするために、高松市認知症ケアパス等の普及啓発や「ほっとする場所カフェ」の設置を望んでいますが、今後の計画についてお示しください。</p> <p>また、認知症の人やその家族の精神的安定を図り、ひいては、医療や介護保険サービス等に繋がるよう、複数の専門職が訪問支援を行う、認知症初期集中支援チームの設置、運営をお願いしたい。</p> |

| 番号 | 項目 | 意見の内容 |
|----|-------------------|--|
| 5 | 【田井幼稚園及び大町幼稚園の今後】 | <p>田井幼稚園や大町幼稚園では園児数が減少しているようですが、園児数が(1クラス) 10名に満たないようでは、幼児教育に支障を来たすこともあると思われます。</p> <p>今後は、閉園や合併又はこども園への移行など、どのような運営を考えておられるのかお示しください。</p> <p>参考 H30. 5. 1現在の園児数 田井 年少5人 年中7人 年長 7人 計19名 大町 年少5人 年中4人 年長12人 計21名</p> |
| 6 | 【牟礼図書館の快適利用】 | <p>牟礼図書館は、読書をしたり、本などを貸し出したりする施設ですが、学生達からは、静かな環境で勉強したいとの意見も増えています。</p> <p>さぬき市の図書館はサービスも行き届いて、学生たちも快適に活用していると聞いています。</p> <p>牟礼図書館でも、旧態依然とした管理的姿勢を改め、空き部屋を自習施設とするなどして、子どもたちがもっと利用しやすい環境を積極的に創る必要があるのではないか。</p> |
| 7 | 【児童虐待の対応及び支援】 | <p>昨今、虐待については、痛ましいニュース等を聞いたり身近にも様々な出来事があることを知り、心痛む思いになります。</p> <p>そのような中、高松市は本年度からこども女性相談室が課に昇格し、虐待事案に適切に対応して行くことを知り、心強さや安心を感じています。</p> <p>さて、虐待については、緊急の際の通報や気になる家庭の見守りは、地域住民としても心掛けているところではありますが、地域住民が関わる程度や内容には限界があるため、そのような際にはやはり、専門家の知識や関わりが必要であると感じています。</p> <p>緊急時のみならず、継続的な支援と対応について、高松市としてどのように考え、取り組まれているのかお示しください。</p> |
| 8 | 【放課後児童クラブの職員配置】 | <p>放課後児童クラブの職員配置については、現在、支援員及び補助員を規定よりややゆとりをもって配置していただいており、利用する保護者にとっても大きな安心であろうと感じています。</p> <p>しかし、本年度から補助員が削減されると聞きました。</p> <p>放課後児童クラブにおいては、1日の授業を終えた異学年の児童が共に生活や遊びをするため、ややもすると、トラブルや事故の発生も懸念されます。</p> <p>また、支援員の用務も、迎えの保護者や小学校の先生との話し合いや、校庭に出て遊ぶ子、室内に残る子、それぞれへの対応など、多岐に渡っています。</p> <p>このようなことから、子どもにとって過ごしやすく、保護者にとっても安心できるクラブとなるような職員配置を検討していただきたい。</p> |

| 番号 | 項目 | 意見の内容 |
|----|--------------------------|---|
| 9 | 【医療費助成の充実】 | <p>現在、高松市の医療費の助成対象は、小学6年生までは入院費と通院費、中学3年までは入院費のみとなっていると承知しています。</p> <p>しかし、近隣市町では、中学卒業まで、入院費と通院費が助成されると聞いています。</p> <p>子育て家庭の経済的負担を軽減するため、今後、高松市として、年齢を引き上げる考えがあるかお聞かせください。</p> |
| 10 | 【ため池のかいぼり等による維持管理】 | <p>香川県のため池は、兵庫県（43,245箇所）、広島県（19,609箇所）に次ぐ全国で3番目（14,619箇所）に多いと言われています。【平成26年3月国土交通省防災課調】</p> <p>香川県は、全国的に見ても数少ない、「ため池の保全に関する条例」（昭和41年10月13日制定）を制定しており、先人は、雨の少ない香川県でため池を大切に守ってきました。</p> <p>そのため池では、かつて、水門などの設備保全や泥の排出を目的に水を抜き、池底を天日干しする、いわゆる「かいぼり」が行われていましたが、農業人口減少と高齢化により、近年ではほとんど行われていないため、池底に落ち葉が大量に堆積し、夏場にはアオコが発生し、悪臭を発しているものを見かけることがあります。</p> <p>「かいぼり」を行うことで、水質が浄化され、このような事態を未然に防止できるほか、堤防の状態が把握でき、ため池の耐震化にも繋がります。</p> <p>今後、高松市における「かいぼり」を始めとした、ため池保全のための施策について、お示しください。</p> <p>併せて、近年、イノシシの掘り起こしによるため池堤防への被害が散見されるため、防護柵の設置が急務と考えますが、高松市においては、これまでの補助制度を見直し、このような事案についても、補助対象とするよう、検討されたい。</p> |
| 11 | 【水道事業の安全整備】 | <p>私たちは、上下水道整備により、衛生的で安全な水道水の恩恵を受けています。</p> <p>しかし、近隣で、何度も水道管が破裂し、その度、緊急工事で修復されているのを見かけます。</p> <p>水道管は、地下に埋設されており、劣化の程度が分かりにくいですが、敷設時の資料等で経過年数等を正確に把握するなどして、計画的な維持管理を実施していただきたい。</p> |
| 12 | 【ゴミの削減に向けたダンボールコンポストの活用】 | <p>高松市でもゴミの減量については、様々な対策が取られ、広報によれば、2016年度比で家庭ごみが10%の減少になっているようです。</p> <p>ゴミの問題は、地域住民としても、今後も減量、削減に努めたいと考えています。</p> <p>その方策の1つとして、ダンボールコンポストを活用してゴミの削減を進めていますが、高松市全体としては、現在どのような状況であるかお示しください。</p> |

| 番号 | 項目 | 意見の内容 |
|----|--------------|---|
| 13 | 【所有者不明土地の対応】 | <p>近年、全国で相続未登記により、所有者が分からなくなっている土地が増え続けています。</p> <p>名義人の死亡後も、法務局への相続登記がなされていない土地は「所有者不明土地」と定義されています。</p> <p>何故、増え続けるのか。その1つに、土地の資産価値が減少した「不動産」を相続で引き継いだとしても、登録免許税や固定資産税、後の管理コストなどの負担が大きい為、登録手続きを敬遠しているのが原因ではないかと思われます。</p> <p>所有者が不明なままだと、固定資産税の徴収や公共事業にも支障が生じるほか、環境保全の妨げにもなります。</p> <p>また、農地や森林の荒廃により、二次災害に繋がるおそれもあります。</p> <p>国も、漸く不明土地を公共事業に利用できるようにする制度を検討しているようですが、高松市は、これら問題な土地を把握されているのかどうか、把握されていれば、その詳細な内訳と今後、その土地にどのような対策を講じようとしておられるのかお聞かせください。</p> |
| 14 | 【廃屋の撤去】 | <p>廃屋の撤去が進まない原因の中には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地・建物の所有者が経済的に余力がない高齢者の場合、廃屋を撤去するための資金がなく、現在の生活を維持するのが精一杯である。 ・災害に弱い地域では、地価が安く、更地にしても廃屋の撤去費を加えた価格で売却できる見通しがなく、かつ、更地に戻すと固定資産税が上がるため、現行の税制の中では自力で廃屋を処理して土地を持ち続けることができない。 ・相続対象者が遠方で居住しており、廃屋付きの土地を相続する意思がなく、持ち主の死亡時に相続対象者全員が相続放棄するほかに手立てが見つからない。 <p>などのために、経済的に余力のない高齢者など、弱者にとっては、廃屋撤去に協力したくてもできないという事情を抱えていることが少なくないようです。</p> <p>廃屋は、景観を損なうだけでなく、地震や津波、異常気象などによる水害発生時に地域住民を二次被害の危険に晒すことがあるため、その対策には、行政と地域住民が一歩踏み込んで協力し、取り組む必要があります。</p> <p>全国的には、廃屋の撤去と地域住民による土地の再生・有効利用という一石二鳥の効果を上げている先進的な成功事例も時々報告されていますが、高松市における「廃屋対策支援施策の推進」について、今後の方針や見通しなどをお示しください。</p> |
| 15 | 【市有墓地の管理】 | <p>高齢化や核家族化などにより、市有墓地においても、無縁墓が増えている状況ですが、墓地の周囲に植えられている樹木の繁茂し、墓が落ち葉で覆われている状態も見受けられるため、枝葉の伐採を行うなど、市有墓地の管理方法について、高松市の考えをお示しください。</p> |

| 番号 | 項目 | 意見の内容 |
|----|-----------------------|---|
| 16 | 【コミュニティバスの運行】 | <p>年々、高齢者が増加する中で運転免許証の自主返納のための施策としてもコミュニティバスの運行は必要不可欠であると考えます。</p> <p>香川町浅野でも、既にコミュニティバスの運行が実施されているので、是非、牟礼総合センター地域一帯においてもコミュニティバスを運行していただきたいが、高松市としてどのように考えておられるのか、お示しください。</p> |
| 17 | 【道路の整備・維持管理】 | <p>合併基本計画で掲げた道路の整備のうち、未だに整備が完了していない路線が複数あります。道路は、地域の暮らしを支え、利便性を高めると共に、交流を促進し、安全・安心を確保するための基幹インフラであるので、引き続き、該当路線の早期整備に向け、優先度に応じた重点的取組みを切望します。</p> <p>また、道路ストックの老朽化対策は喫緊の課題であり、メンテナンスサイクルの構築、予防保全維持管理の導入等の更なる取組みが求められています。</p> <p>特に防護柵や道路標識など道路付属物の多くは、住民の身近な安全・安心に直結するものであり、速やかな点検の実施と発見されたハザードの適切な除去対策が急務であると考えますが、これらに対する高松市の取組みについて、お示しください。</p> |
| 18 | 【自治会加入促進と自治会活動への支援拡充】 | <p>自治会は、地域コミュニティ形成の最前線組織であり、大規模災害等の非常事態で、“イザ”というときに、最も頼りになる組織です。</p> <p>また、最近では、地域包括ケアや健康づくりの推進、防犯など、行政の役割の一端を担うケースもあるようです。</p> <p>しかしながら、自治会の実態は、高齢化等に起因する退会者の増加や若者世帯の自治会離れ等によって、加入率は年々低下しており、もはや、単位自治会レベルの対応では歯止めがかかる状況になっています。</p> <p>今こそ、自治会が、より参加しやすい存在となるよう抜本的な見直しを行い、地域の実情に応じた、より実効性のある自治会加入促進に向けた取組みを高松市の組織を挙げて展開する必要があると考えていますが、一方で、自治会などに対する各種助成金の削減・打切りや、まちづくり交付金の使途制約など、住民組織への支援が縮小される傾向にあり危惧しています。</p> <p>自治会への加入促進と支援拡充について、高松市としての考え方をお示しください。</p> |